

・・・ 編集後記 ・・・

2013年から今号で5号目の編集に携わっています。学会誌の編集に関わって、執筆依頼の気遣いや原稿チェックの難しさなど貴重な体験をさせて頂いています。また、投稿された論文や報告に目を通す機会も多くなり、示唆に富んだ内容に大いに刺激されています。第7巻2号も多分野からの教育論文や報告があり、明日からの学生教育に導入したいものが多数みられました。ご多忙の中、投稿して下さった執筆者の皆様に感謝申し上げます。

さて、2015年は、臨床検査学教育にとって目の離せない法改正が続いています。臨床検査技師の業務範囲が見直され「検体採取について5つの行為」が定められました。また、生理学的検査に「嗅覚検査」と「味覚検査」の行為が加えられました。これに伴い、教育内容の基準が改正され、「人体の構造と機能」が「7単位」から「8単位」に改められるとともに、新たに「医療安全管理学(1単位)」が追加され、平成28年度入学生から適用となります。関連して平成32年の国家試験から、新たな出題基準が適用される予定です。さらに本年度から、「臨床検査技師養成所の指定・監督権限」が厚労省から都道府県に

委譲され、新たに「臨床検査技師養成所指導ガイドライン」が定められました。

これらの業務範囲の拡大は、日本臨床衛生検査技師会(日臨技)の精力的な運動によって実現され、日臨技は検体採取から結果説明まで責任をもった検査業務を確立するために、計画的に研修会を開催しています。すでに医療機関においては在宅訪問検査を打ち出す施設も出始めています。教育機関としてもこれらの動きに呼応した教育をすすめるなければなりません。卒前卒後教育の緊密な連携は、チーム医療において存在感のある臨床検査技師を育成するための重要な鍵になると考えます。

本年8月には第10回日本臨床検査学教育学会学術大会が開催されます。1973年の協議会研修会から43年の歴史を経て節目の大会となります。本会への加盟校も83校となり、質量ともに強固な学会として発展しています。また、学会運営規定も改正の方向にあり、今後は臨床現場から、臨地実習や初任者教育、キャリア形成教育などの学会報告や本誌への投稿も大いに期待したいと思います。

(平成27年6月1日 編集委員 高岡榮二)

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会
日本臨床検査学教育学会 学術部

編集委員会(平成25・26年度)

委員長：奥宮敏可(熊本大学)、副委員長：渡邊幹夫(大阪大学)、委員：石橋佳朋(東武医学技術専門学校)、
今井 正(香川県立保健医療大学)、高岡榮二(高知学園短期大学)、山内一由(筑波大学)

臨床検査学教育 第7巻第2号

平成27年9月1日 発行

発行人：一般社団法人日本臨床検査学教育協議会
理事長 戸塚 実
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科
生体検査学専攻内
Tel. 080-8914-3214
e-mail : jimukyoku@nitirinkyo.jp
http://www.nitirinkyo.jp

編集：日本臨床検査学教育学会 学術部 編集委員会
e-mail : edit@jamte.org
制作：(株)宇宙堂八木書店
〒104-0004 東京都中央区入船3-3-3
Tel. 03-3552-0931 FAX 03-3552-0770
広告取扱社：(株)日本廣業社
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-11
Tel. 03-3238-7501